

6月15日に通常通りの授業が再開されました。全校生が学校に集いようやく本来の姿に戻ってきました。部活動の方も平日3日、休日1日ではありますが、来週からの完全実施に向け、着々と歩みを進めています。クラスの様子を見てると会話も弾み、学校生活が始まったという実感が持てます。しかしながら、教室での暑さや通学時の暑さとともにマスク着用率は下がってきたように思います。健康チェックの方はスムーズに行われているようですが、代替大会や各競技団体の競技会再開に向けた要項などを見ていると入場制限がされているだけでなく、入場者や選手に2週間程度の体調管理チェック表の提出が求められ、大会後に感染が発覚した場合の連絡義務があるなどかなり気を遣った運営となっています。また会場での滞在時間を短くしたり、大会参加に関する保護者の同意書が必要であったりと例年通りの開催というわけにはいかないようです。しかしながら動き始めたことも事実。ルールをしっかり守り、安心安全な大会運営が続くことで通常の開催に戻ってくると思いますし、一人一人の自覚が大会を支えることにもなります。東京ではいまだ2桁の感染者が出ており、全国的にも少なくなったとはいえ感染者がゼロになっていません。そういったことから今一度気を引き締めて感染防止に努めていきましょう。朝の健康チェックはそういった全国的な大会の取組に対してまだまだ継続が必要だと考えていますので、もうしばらくのご協力をお願いいたします。また、消毒作業など清掃にも十分にも気を付けて継続的な実施をしていかねばならないと考えています。

そして6月17日ようやく1年生への部活動紹介を行いました。生徒会企画で、各部代表が持ち時間1分という非常に短い時間を有効に活用し、各部の活動を紹介しました。紹介動画を作成していない部、2年生がいらない部などは死活問題とばかりに入部を募っていました。今後、放課後を利用した実演(パフォーマンスなど)による勧誘も行われると聞いています。こういった時期ですので是非積極的に部活動に参加し、学校を盛り上げてほしいと思っています。

さらに午後からは身体測定が行われました。全校生が一斉に、身長、体重、視力、聴力を測ります。いつもならこの時期には検診も終わっているのですが、今年は臨時休業の影響からほとんどが2学期実施となりました。この身体測定と健康診断は今年に限り年度内実施(例年は6月までに実施)となっています。校医先生の協力を得て順次実施していきます。

17日の新聞紙面では、文部科学省が全国高校校長会の要望を受け付けずと出ていました。6月初旬に全国の高校の校長にアンケート調査の依頼があり、大学入試等の時期についてどのように考えるかというものでした。当初例年通りという結果が伝えられたのですが、首都圏の高校から延期の要望が強く出され、それに伴い各県の代表によるWEB会議が行われ、延期の要望を出すということでした。そして18日の新聞紙面では大学入学共通テストの日程は延期されず1月16日・17日実施と出ていました。総合型選抜(従来のAO入試)の開始が2週間程度遅くなるだけで、学校推薦型選抜(従来の推薦入試)以下の日程は変更なしだそうです。出題範囲などについては検討とあります。今の状況であれば、大学側の準備もありますので、概ね予想通りの決定だと思います。9月入学も検討されましたが、社会への影響や今の年齢段階を変えていくことに関しての抵抗感などから検討の継続はされるようですが、来年度実施はなくなりました。すでに就職については、就職試験が例年より1ヶ月遅くなり10月16日以降となっています。(休業要請や緊急事態宣言の影響により採用状況に大きな変化があるようなので。)大学入試もこれで一区切りです。この世代は英語の4技能試験がはいり、数学・国語で記述式が共通テストに盛り込まれると言われるなど入試改革が叫ばれ、右往左往した学年です(実際にはいずれも延期)。生徒への影響を考えるとこれ以上不安な要素は取り除いてほしいと思



います。今後第2波、第3波によっては変えざるを得ないところも出てくるかも知れませんが、新型コロナウイルス対策をしっかりとってその影響を最小限にとどめ、今年度が無事終了することを祈るばかりです。



6月18日には1年生普通科の総合的な探究の時間に県立教育研修所のさくらホールで加東市まちづくり政策部まちづくり創造課の方から高校生の住みたいまちづくりについての提案募集の話をお聞きしました。これは加東市の現状から少子高齢化に向け住みやすい街づくりをすることで人口増を図るための提案

案を高校生の視点で考えるためのものです。現在の人口を維持するには1人の女性が2人の子供を出産しなければ維持できません。加東市は1.5人、三木市では1.27人となっています。本校では昨年度生活科学科が全国地方創生政策アイデアコンテストにおいて、もち麦を使ったスूपの商品開発を行い、優秀賞を受賞しましたが、これも農業収入を増やして地域を活性化するという視点での提案により、実際に商品販売までこぎつけたものです。少子高齢化からの脱却を図り、人口増に結びつけるのはなかなかハードルは高いのですが、今から考えていっても10数年後にしか目に見えて効果は出てきません。今やらなければ人口減は加速する一方です。都市部への人口集中が進むと、今回の新型コロナウイルスの感染を見ても、都市部での急速な感染拡大によって都市機能が低下し、経済への影響が大きくなることは証明されました。兵庫県でも加東市を含めた都市近郊での生活力を高め、バランスのとれた地域にしていくことで、感染拡大を防ぎ、また社会機能も維持できるようになると考えられます。高校生の視点で住みよいまちづくりを考え、行政が取り組める内容になればこれほど素晴らしいことはありません。是非いろいろな視点で地域を見つめ、課題解決に向かう手立てを考えるきっかけにしてほしいと思います。9月末までという期限がありますので、時間は少ないですが、建設的な提案が出ることを期待しています。

今週は、毎日登校するという普段通りの生活に戻りましたが、梅雨の時期とも重なり、少し疲れてきた人がいるかも知れません。土日で体調をしっかりと整えて、来週以降通常通りとなる部活動も含めてしっかりと頑張っていきましょう。

※県外の移動に関する規制が6月19日以降緩やかになっていきます。移動が多くなると感染拡大が懸念されますが一人一人の自覚を高め、予防に努め、日常の生活を守っていきましょう。よろしくお祈りします。